

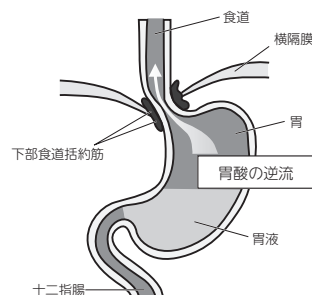
## 第 38 章

# 消化器疾患① (食道・胃・小腸・大腸)

## 1 食道疾患

### ■ ①逆流性食道炎

胃液が食道に逆流して食道粘膜に炎症を生じた状態である。下部食道括約筋の機能不全が原因である。高齢者や肥満者に多く、大食、アルコール摂取は症状の増悪因子となる。症状は胸焼け、胸痛、咳嗽などであり、胃酸分泌抑制剤を投与する。



### ■ ②食道癌

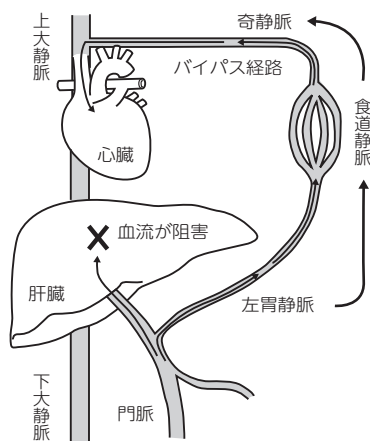
中高年の男性に多く、ほとんどが扁平上皮癌である。中下部食道に好発する。

症状は嚥下困難、体重減少、吐血などであり、原則外科手術を行う。早期の場合は内視鏡的粘膜切除術を行う。

### ■ ③食道静脈瘤

肝硬変などで門脈～肝臓～肝静脈の血液の流れが阻害されると、門脈圧亢進をきたし、門脈→左胃静脈→食道静脈→奇静脈のバイパスが形成される。瘤は破裂することもあり、吐血をきたす。内視鏡的食道静脈瘤硬化療法 (EIS) や内視鏡的食道静脈瘤結紮術 (EVL) が行われる。

門脈圧亢進によるバイパスのルート



## 2 胃・十二指腸疾患

### ■ ①急性胃炎

薬剤 (非ステロイド系消炎鎮痛薬、抗生物質) やストレス、暴飲暴食、刺激物などにより激的な心窩部痛と嘔吐、吐血を呈す。内視鏡では胃粘膜の発赤、出血性びらんがみられる。

## ■ ②慢性胃炎

胃粘膜の萎縮を主体とする慢性炎症である。**ヘリコバクター・ピロリ菌**の感染が誘因となる。長期間、胃部不快感や食欲不振がみられ、ピロリ菌の除菌や対症療法が行われる。

※ヘリコバクター・ピロリ

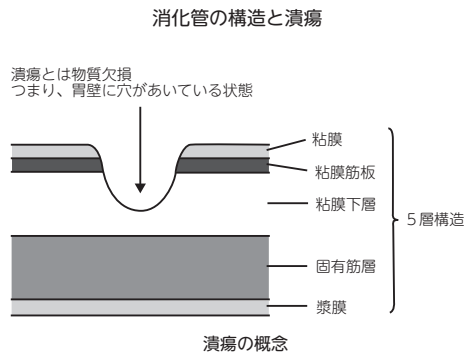
ピロリ菌は1～2週間の治療で除菌することが可能。これまでに、胃・十二指腸潰瘍やMALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病などに対してピロリ菌除菌が有効であることがわかっている。またピロリ菌感染と胃癌発症の因果関係が報告されている。

## ■ ③胃・十二指腸潰瘍

胃・十二指腸の**粘膜下層**までおよぶ欠損をいう。

胃粘膜の防御因子（血液や粘液）と攻撃因子（ペプシンや胃酸、ピロリ菌）のバランスが崩れることで形成されと考えられている。

治療には**胃酸分泌抑制**（抗コリン剤、H<sub>2</sub>ブロッカー、プロトンポンプ阻害剤）を使用する。また、**ピロリ菌の除菌**を行う。



## ■ ④胃癌

日本の悪性新生物の死亡率では肺癌に次いで**第2位**であるが、減少傾向にある。ほとんどは**腺癌**であり、好発部位は**幽門前庭部**（胃の出口）である。原則として外科手術が行われるが、早期胃癌では内視鏡を用いて切除する。その他に化学療法や放射線療法も併用する場合がある。

# 3 小腸・大腸疾患

## ■ ①炎症性腸疾患

主として大腸を侵す原因不明の非特異性炎症であり、**潰瘍性大腸炎**と**クローン病**を指す。

潰瘍性大腸炎	直腸から上行する <b>連続性病変</b> で原因は不明であり、若年成人に好発する。潰瘍は <b>粘膜下層まで</b> で、 <b>癌化の危険性</b> がある。症状は下痢や血便などである。
クローン病	口腔から肛門まで起こり得るが、回盲部に好発する <b>非連続性病変</b> で原因不明である。10代後半から20代の若年成人に好発し、やや男性に多い。潰瘍は <b>全層性</b> で、しばしば瘻孔や肉芽腫を形成するが、癌化はまれである。症状は腹痛、下痢、血便、発熱、瘻孔による栄養不良である。

### ●治療

ステロイド剤などの内服療法、白血球除去療法（LCAP）、顆粒球吸着療法（GCAP）、重症では経管栄養、大出血では緊急手術が行われる。

## 演習問題

## ■ 第20回午前問題37

消化器疾患とその原因との組合せで正しいのはどれか。

- a. 食道静脈瘤——肝硬変
- b. 食道炎——胃液逆流
- c. 胃潰瘍——ピロリ菌
- d. 胆石症——高尿酸血症
- e. 大腸癌——内痔核

- 1. a b c    2. a b e    3. a d e
- 4. b c d    5. c d e

- a) 肝硬変などで門脈～肝臓～冠静脈の血液ルートが阻害されると、門脈圧亢進をきたし、門脈→左胃静脈→食道静脈→奇静脈のバイパスが形成される。食道静脈は粘膜直下を走るため、積み重なるように拡張した血管がみられる。これを食道静脈瘤という。しばし破裂し、吐血する。
- b) 胃酸の逆流により、食道粘膜の発赤やびらんを呈すものを逆流性食道炎という。
- c) 胃・十二指腸の粘膜下層までにおよぶ欠損をいう。胃粘膜の防御因子（血液や粘液）と攻撃因子（ペプシンや胃酸、ピロリ菌）の平衡が破れることで形成され则认为ている。

■ 正解 1

## ■ 第21回午前問題37

胃潰瘍の発症に関与する因子について誤っているのはどれか。

- a. ストレス
- b. ピロリ菌
- c. クラミジア
- d. H<sub>2</sub>遮断薬
- e. 非ステロイド系抗炎症薬（NSAID）

- 1. a b    2. a e    3. b c
- 4. c d    5. d e

胃潰瘍の発症に関与する因子にはピロリ感染、非ステロイド性消炎鎮痛薬（NSAIDs）や抗菌薬の使用、ストレス（手術、外傷、熱傷など）、喫煙等がある。H<sub>2</sub>遮断薬は胃酸の分泌をおさえる目的で胃潰瘍の治療に使用されることがある。

■ 正解 4

## ■ 第25回午前問題19

白血球除去療法の適応がある疾患はどれか。

- 1. 逆流性食道炎
- 2. 胃潰瘍
- 3. 胃癌
- 4. 大腸ポリープ
- 5. 潰瘍性大腸炎

自己を攻撃している活性化した白血球を除去する治療法として以下のLCAPとGCAPがある。  
白血球除去療法（LCAP）：潰瘍性大腸炎  
顆粒球吸着療法（GCAP）：潰瘍性大腸炎、クローン病

■ 正解 5